

日帰り・1泊/電車orマイカー利用

おせがはら

# 尾瀬ヶ原 MAPはP122参照

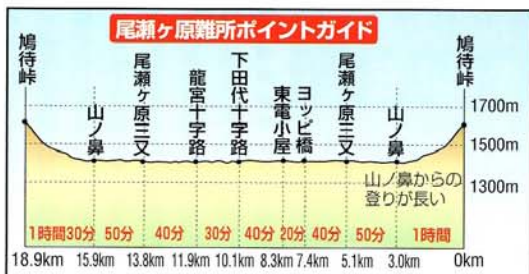
●標高1400m ●初心者向 ●全歩行時間6時間40分

尾瀬には尾瀬ヶ原を筆頭に、いくつも湿原が存在している。湿原は生成過程により低層、中層、高層に分けられるが、尾瀬の湿原は高層に分類される。沼などにミズゴケ類が繁殖し、枯れたものが堆積して泥炭層になる。それが水面を覆うことによって高層湿原は形成される。尾瀬ヶ原は燧ヶ岳の噴火で只見川が堰き止められ、そこが高層湿原化したものといわれており、現在の湿原になるまで6000年を要したと推測されるという。



## 尾瀬 尾瀬ヶ原ルートガイド

ニッコウキスゲが咲き誇る尾瀬ヶ原。さまざまな花たちが短い夏を謳歌し、大勢のハイカーがその美しさに魅了されている



1日2500円の駐車場。ちょっと高すぎないか！



所要所にポイントガイドがあり、勉強になる



数千年の歳月が作り上げた中田代の池塘と浮島



湿原の周りは深い森になっている



山ノ鼻で出会ったポッカさん

## インフォメーション

- ★電車でのアクセス  
東京駅から上越新幹線で上毛高原駅へ。ここから関越バスで戸倉へ行き、鳩待峠行きバスに乗り換える。東京駅～上毛高原/上越新幹線1時間20分/5750円。上毛高原～戸倉/関越バス1時間55分/2450円。戸倉～鳩待峠/関越バス30分/900円
- ★クルマでのアクセス  
関越自動車道沼田ICから国道120号線を日光方面へ。鎌田で国道401号線に入り、戸倉で左折する。道幅は狭く、カーブが多い。途中、道標に従って右折すれば鳩待峠。戸倉から先は例年5月下旬～10月中旬の金・土・日、祝日と7月と8月のトップシーズンにはマイカー通行禁止。時期は変動するので、☎0278-58-2111片品村尾瀬交通対策連絡協議会へ問い合わせよう。規制日は戸倉にある有料駐車場からバス(片道900円)に乗る。沼田ICから50km。練馬～沼田IC/126km/3450円。関西からは中央道・長野道・上信越道・関越道経由が近い。小牧IC～沼田IC/411km/8750円。
- ★駐車場  
鳩待峠の駐車場は1日2500円。峠の直前とバス停の先にある。駐車料金が高いようにも思うが、なるべくバスを利用するよということなのだろう。戸倉には大きな駐車場がふたつある。どちらも1日1000円。
- ★登山適期 5月～10月初旬
- ★問い合わせ 片品村観光課 ☎0278-58-2111

## 山道を下り山ノ鼻から平坦な木道を歩き始める

尾瀬湿原や至仏山を訪れる人たちが賑わう鳩待峠。食堂と売店を兼ねた休憩所が建ち、その奥には鳩待山荘がある。湿原方面への登山口はバス停前を通り越した所にある。木や石の階段が続く登山道を山ノ鼻へ向かう。登りはなくすべてが下りだ。階段下りから土の道になると斜面を下るようになる。左上には至仏山が見えている。



山ノ鼻から木道を行く。正面に見えるのは至仏山

沢沿いを歩き小さな橋を渡ると山ノ鼻右にログハウスが現われる。そこがビジターセンター。尾瀬ヶ原の自然や歴史が手に取るように理解できる。その日の天気や翌日の予報なども掲示されている。傍らには無料休憩所も併設。ビジターセンターの前には水場が作られ、チップ製のトイレもある。至仏山荘と山の鼻小屋、国民宿舎尾瀬ロッジが建っている。湿原入口の広場にはベンチとテーブルが設けられ燧ヶ岳も見えている。

山ノ鼻から木道を歩き始める。右側には3軒の小屋が並ぶ。起伏はなく平坦な

木道歩きが続く。下田代方面へ歩を進めると正面に燧ヶ岳、後方には至仏山が眺められる。二本の木道が延びる湿原には、各所に植物や池塘などを解説したポイントガイドがある。大きな広がりを見せる湿原。遮る物のないロケーションを楽しみながら、のんびり歩くことにしよう。湿原にはさまざまな花が咲き、頬をなでる風以外の音も少ない。遠くに見えるハイカーの姿もスローモーションのように。まるで夢の中にもいるような感覚だ。

つづくに行けば龍宮小屋から下田代だが、左へ進み、東電小屋方面へ行ってみる。湿原の西北の端を歩くルートで右に湿原の広がりを展望しながら歩く。左にはヨツビ川が流れている。雪による被害をなくすため、シーズン以外は川から外されるヨツビ橋を渡る。しばらく進むと前方の森の中に東電小屋が見えてくる。この小屋の前を通り、20分ほど湿原の中を進むと小沢平方面へ抜ける道と合流する。右へ行けば下田代十字路。ここは左へ進み元湯山荘の先の無料休憩所まで行ってみる。湿原から山麓を歩くような木道歩きになり15分ほどで尾瀬温泉小屋、元湯山荘に到着する。ここから温泉小屋道を登って燧ヶ岳へ向かう人も多い。元湯山荘の先に無料休憩所とひと休み。ここには売店が併設されている。

登山客、宿泊客でぐった返す尾瀬の核心部分へ

充分休憩したら木道を戻り、下田代十字路へ向かう。東電小屋に向かう道を右に見送り、30分ほどで下田代十字路に到着する。

尾瀬の二年

太平洋気候と日本海気候、本州中央高原気候に影響を受ける尾瀬の気候は厳しい。春の訪れは4月下旬頃。それでも時に氷点下5度Cにまで下がることがある。その後5月下旬になるとミズバショウが咲き、7月中旬の梅雨明けで夏が訪れる。しかし、最も注意しなければならぬのがこの夏。ほかの山域よりもはるかに多くの雷が発生するからだ。遮る物のない湿原だけに、充分注意する必要がある。8月に入ると小屋は満室になるが、下旬には最低気温が10度Cほどに下が



龍宮小屋を過ぎると燧ヶ岳が見える

ってくる。9月下旬10月上旬が紅葉期。草紅葉が美しい時だが、そろそろ雪が降り始める頃でもある。10月も下旬には小屋もその年の営業を終え、湿原は半年余りの眠りに入る。



登山者が減ると木道の修理が始まる



木道の間もきれいに紅葉する